

天皇杯・皇后杯広島県予選結果報告

広島大学体育会バレーボール部同窓生の皆様

(同窓会連絡フォームへ登録いただいた皆様及び同窓会やコートの仲間等でご連絡いただいた皆様へお送りしています。)

いつも大変お世話になっております。

広島大学体育会バレーボール部です。

7/9～10 に広島県猫田記念体育館において、天皇杯・皇后杯広島県予選が開催されました。広島大学の結果は、以下のとおりです。

(男子)

2 回戦 vs 瀬戸内高校 B

○2-0 (25-18、25-23)

3 回戦 vs 崇徳高校 A

●0-2 (23-25、22-25)

(女子)

1 回戦 vs Wings

●0-2 (17-25、16-25)

(広大バレー部 Twitter)

<https://twitter.com/hiro daiVOLLEY>

女子は初めての社会人チームとの対戦、天井が低いコートでの試合に対応できず、成すすべなく敗れました。サーブもスパイクもネットを越えず、試合中の修正が出来ませんでした。雰囲気も全く上がらない中でしたが、森次と大前はいつもの通りのプレーが出来ており、唯一の収穫となりました。

男子は、松本、稲葉、河津、樋口、保坂のレギュラー陣を欠いたメンバーで崇徳高校と対戦しましたが、試合内容は上半期の中で最も素晴らしいものになりました。これまで、応援されるチームからはかけ離れた内容ばかりでしたが、勝利を目指して声を出し続ける姿は本当に輝いていました。相手チームは攻守ともにバランスが取れており、長短が際立つ広大は苦しい場面がほとんどでしたが、試合を見ていた人は全員、広大を応援してくれていたと思います。

自分の状態やチームの調子が良いときに声を出せる、盛り上げられるのは当然です。大事なことは、自分やチームの状況が芳しくないときに、チームを盛り立てられるかどうかです。その点で、村上と水谷が6ローテ入っていたからこそ、これだけの内容につながったと感じました。自分が失点したときでも、相手がサーブを打つ前に、全員の目を見て声をかけ合っていた姿が非常に印象的でした。

残りのメンバーも彼らに引っ張られてムードを上げていましたが、まだまだ自発的とは言えません。また、メンバー外のプレーヤーはそれぞれ長所があると思いますが、苦しいときの声掛けが自信を持って出来ると言える選手がいるでしょうか。これから長期オフに入り、フィジカルの強化に取り組むと思いますが、チームを鼓舞する力こそ、毎日の積み重ねで身に付くようになるものです。下半期はフィジカルの能力だけでメンバーを選ぶのではなく、誰からも信頼される集団がバレーボールを楽しむ姿を見せて欲しいと思います。

今週末は、ビーチバレー男子大会に2ペア出場を予定しています。
引き続きよろしく願いいたします。